

ポイント

◇◆特集◆◇

★45フィートコンテナの特区における取り組みについて★
(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

これまでの国際海上コンテナの大型化の動きとそれに対応した特殊車両通行許可制度の運用、そして構造改革特別区域において特例措置として講ずることとなった「45フィートコンテナの輸送円滑化事業」について概説する。

◇◆訴訟事例紹介◆◇

★台風により街路樹が倒れ、走行中の普通乗用車に直撃した事故について、
道路の管理瑕疵が争われた事例★

<平成21年7月14日 熊本地裁判決>
(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

台風接近の中を普通乗用車が走行中、道路脇の街路樹が倒れてきて車両に直撃し、運転者等が負傷した。

倒れた街路樹の根元に病原性の強いベッコウタケの子実体が着生しており、本件事故は、道路管理者の街路樹管理のずさんさにより発生したとして修理費、治療費等を請求。

【判決要旨（一部認容）】

病原性の強い腐朽菌であるベッコウタケの子実体の存在は外部から容易に観察可能であり、本件事故の発生が予見不可能であったと見る余地はない。また、ベッコウタケの存在が確認されていれば、本件事故の前に対処することができ、結果回避可能性がなかったということもできない。

◆◆TOPICS◆◆

★スポンサー企業を募り道路の美化活動を社会実験★ (NPO法人道守長崎)

従来まで行政による支援で行ってきた道路美化に関するボランティア活動について、道守長崎会議では、民間活力による支援を行う新たな仕組み「道路植栽帯管理システム」を構築し、社会実験を行いました。本稿においては、当該社会実験におけるシステムの評価や課題等の検証結果をご紹介します。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★道路管理担当職員の能力向上について★ (国土交通省 中部地方整備局 道路部 路政課)

初めて携わる業務で不安だ。業務経験が浅いのでまだ判らないことが多いといった経験は、誰にでもあることかと思えます。中部地方整備局 道路部では、初めて道路管理業務に携わる職員、知識、経験の浅い職員を対象として、職員が安心して業務を遂行していけるよう年間を通じたフォローアップ体制をとっています。

.....

★カーナビデータを活用して走行危険箇所をピンポイントで解消！★ (埼玉県 県土整備部 道路政策課)

埼玉県では、カーナビの走行データを道路行政に活用しています。本稿では、カーナビにおける走行データを活用した急ブレーキ多発箇所の把握とともに、取り組んでいる安全対策の実施例をご紹介します。

.....

★朝霞市の道路美化活動団体制度★ (埼玉県 朝霞市 都市建設部 道路交通課)

朝霞市においては、花と緑のまちづくり事業の施策において、平成17年度に朝霞市道路美化活動団体制度を創設し、積極的に道路美化活動を推進することとしました。本稿においては、本市の道路美化活動団体制度、活動への支援や課題等についてをご紹介します。

◆◆編集後記◆◆

ゴールデンウィークは何をして過ごされましたか？

最近、小旅行や日帰りで楽しむレジャーが盛況で、費用が安い、距離が近い、日程が短いことから「安・近・短」という用語がうまれ、よく耳にするようになりました。そこで、わたしも、ゴールデンウィークを利用して「安・近・短」の日帰り旅行に出かけてきました。

行き先は、静岡県・富士宮市。日本で唯一のドイツ人マイスター（ビール名人）が手がけるオリジナル地ビールが飲める工場見学です。

多少の渋滞はあったものの、約4時間で現地へ到着。自宅を改造したとみられるレストランに併設される形でビール製造場がありました。到着すると、ドイツ人マイスターと日本人の奥様の出迎えをうけ、なんと、マイスターのお名前がビールの製造方法の一つでもある“ラガー”。ビールの味に期待が高まります。ラガーさんの手がけるビールは、ドイツから直輸入した原料（麦・ホップなど）と富士山麓の湧き水、そしてドイツ製の醸造機械と熟練技によるこだわりのものでした。工場内にはドイツ製の銅釜（3基）と、発酵用タンク（10基）などが、ところ狭しとおかれていました。ビン詰め作業の工程では、ホップの香りが工場内に広がり、クルクルと回る瓶に詰められいくビールの様子を見てみると、思わずゴクリと喉が鳴ってしまいました。

工場見学のあとは、いよいよ試飲です。ドライバーに申し訳ないと思いつつ、手づくりソーセージの盛り合わせやザワークラウト（キャベツの酢漬け）などのドイツ料理とともに、ビールを美味しくいただきました。特に、ゆっくり丁寧に、半年もの時間をかけて造った、まるやかで甘美な麦の味わいと芳醇な香りのスペシャルビールには感銘を受けました。

最近では、通信販売によって、全国各地の名産品を取り寄せることができますが、現地に赴き、実際に製造者の方々から、製造過程での苦労や喜びなどを聞きくと、より一層味わい深く感じるすることができます。

3月号の編集後記でもご紹介しましたが、地元の方とのコミュニケーションを図りながら美味しいものを見つけることが、最近の楽しみの一つです。夏にはまた違うところに出かけてみたいと思います。(K)